

やなぎばし

ひらめきは日常の中に

「“紙パック”に疑問を持った小学生が企業に問い合わせ」

先日、ネットニュースでこんな見出しの記事を見つけました。その小学生は、市販の500mL(ミリリットル)入りコーヒー牛乳の紙パックに2つの疑問を持ったといいます。1つは、内容量の500mLをなぜ5dL(デシリットル)と表示しないのか。2つ目は、紙パックに入る水の量を調べると600mL入ったのにもかかわらず、なぜ中身は500mLしか入っていないのか。そこで、その子はコーヒー牛乳を製造している会社に直接メールで質問を送りました。すると、すぐに返事が返ってきたそうです。まずコーヒー牛乳の紙パックに500mLを5dLと表示しない理由について、その会社では様々なかさの紙パック商品を扱っており、中にはdL(デシリットル)よりもmL(ミリリットル)の方がうまく表示できる商品があるため、mL表示に統一しているとの回答でした。また、500mL入りの紙パックは600mL入る大きさなのに、なぜ100mL少なく入れているのかという質問には、開けたときにこぼれてしまうからという回答でした。これについて、その子は「買う人のことを考えて細かいところまで工夫をしているのだ」と納得したそうです。

担任の先生によると、もともと自主学習ノートを毎日のように提出するような子だったが、算数で長さや水のかさといった測定領域の単元になって一気に追究が始まった印象があるとのことでした。水のかさの学習中には、給食の食器にはどのくらい水が入るのかなど、興味関心をもって連日かさに関することについて調べていたようです。

小学校で学習することは、どの教科でも日常生活に生かされていることが多いです。心と周りを見渡せば、「そういえば、この間授業でこんなこと勉強したけど、これはどうなっているんだろう？これも調べてみよう！」と思えることがあふれています。学校では、そのような子どもたちの興味関心を引き出し、将来にわたって自ら学んでいけるような素地を育むために、日々の教育実践を充実させるよう努めております。ご家庭でも、お子さまの素朴な疑問やつぶやきについて、解決につながるような声かけや助言をしたり、時には一緒に考えたり調べたりやってみたりなどして、成功体験につなげていただけたらうれしいです。



教頭 石塚 貢

